

# 『改訂版 入試必携 英作文 Write to the Point』を 活用した取組—状況例を活用した対話作りと自由英作文—

甲斐 順

## 1. はじめに

コミュニケーションを重視する学習指導要領が導入されてから、20年以上が経過しました。大学入試、高校入試ともにコミュニケーションを意識した出題が徐々に増えてきていますが、国公立大学の2次試験では、今も和文英訳問題が必ずどこかの大学で出題されています。現任校は、国公立大学を受験する生徒が毎年100名を越えており、浪人生を含めて、国公立大学に100名以上が合格しています。和文英訳問題への対策として、3年生の英語表現Ⅱ(前教育課程では、ライティング)では、『改訂版 入試必携 英作文 Write to the Point』(以下『Write to the Point』)を副教材として使用しています。私は2015年度初めて『Write to the Point』を使い、英作文の指導に当たりました。ささやかではありますが、その活用法をこの場をお借りしてご報告させていただきます。

## 2. 『Write to the Point』の構成

『Write to the Point』では、各章に「テーマ」が掲げられ、そのテーマに基づいた解説が1ページ目にあり、学習者はこの解説をまず読むこととなります。次に、EXERCISES Aがあり、①は、英作文の際に間違いやすい箇所を問う誤文訂正問題になっています。次の②では、解説で触れられた文法事項や語法についての基本的な和文英訳となっています。EXERCISES Bは、少し長めの日本語を英訳するものですが、それぞれに状況例が記されており、それを踏まえて和文英訳することになります。章によっては、Further Exerciseの自由英作文、単語や表現などについてのコラムがあり、深く学習できるような構成になっています。長文英作文や自由英作文の頻出テーマを扱った発展編が終わりのほうのページに掲げられていますが、拙稿では特に触れません。

## 3. 状況例を活用し対話作りへ

高校3年生の前期中間試験以後に、『Write to the Point』を使い始め、授業では解説の後に、実際に問題に取り組みせ、和文英訳のEXERCISESについては、生徒を指名し、板書させ、添削していました。夏休みに入る前に解答編を事前に配布してからは、生徒の中には、板書する際に解答編の答えをそのまま書く生徒が出てきました。自分で考えて和文英訳する生徒もおりますが、解答を写していたのでは意味がありません。打開策はないかと考えたときに思いついたのが、EXERCISES Bについては、『Write to the Point』に示されている状況例を参考に、対話を作らせてみる方法でした。和文英訳から一步進めて、コミュニケーションを意識して表現することができるようになります。

ここで、具体的に取組をお示しします。プリント(B4版)には次のように記します。

### 9 時間の表現 「～ぶりで」、「～たてば」など EXERCISES B (Pair Work/Group Work)

次の文を英語にきなさい。さらに、状況例を踏まえ、各日本文を対話者Aの台詞とし、それに対する対話者Bの台詞を考えなさい。A⇒Bで終わっても良いし、A⇒B⇒Aとどんどん発展させても構わない。

(1) テレビの夕方のニュースによれば、東京は10年ぶりの大雪だったとのことだった。[信州大\*†]  
《Words & Phrases》夕方のニュース the evening news on TV/the TV evening news

【状況例】 昨日の大雪について、友人同士で話題にしている。

A:

B:

(以下省略)

模範解答は、The evening news on TV [The TV evening news] says [said] that Tokyo had the heaviest snow [the most snow/the heaviest snowfall] in ten years. になり、これがAの台詞になります。各生徒がこの模範解答に類する英文を書いた上で、状況例を踏まえてBの台詞を書くことになります。それでは生徒たちは具体的にどんな英文を考えたでしょうか。板書で指名した生徒だけでなく、机間指導している際に、私がメモをとったものを紹介します。

- ・ You have to be careful so that you won't slip and be injured.
- ・ Oh, I want to play there. It's a rare phenomenon in Tokyo.
- ・ Oh, that's wonderful.
- ・ Oh, my father was not able to come home that day because of the heavy snow.
- ・ Wow. That's amazing.
- ・ We're in Okinawa, so the news is interesting to me.
- ・ Did you make snowman?
- ・ Really?
- ・ I think Tokyo is too weak against snow.
- ・ Really? Yokohama was sunny yesterday.
- ・ So I was buried by heavy snow yesterday.
- ・ Is that the reason why you were late this morning?
- ・ Oh! Let's make many snowmen.
- ・ I was surprised to hear that.
- ・ I hear all of transportation system was stopped.
- ・ It was very cold.
- ・ Oh, my God.
- ・ B: I got home at twelve because of traffic jam.  
A: No kidding.

1語での応答から、対話が続きそうな英文まで様々です。

EXERCISES B(2)は、次のようになっています。

- (2) 故郷の町を15年ぶりに訪れましたが、子どものころを思い出させる建物は何一つ残っていませんでした。 [藤女子大]

**状況例** 都会で就職し、15年ぶりに故郷を訪ねた人が発言している。

模範解答の英訳は、When I visited [went (back) to/returned to] my hometown for the first time in fifteen years, (I found that) there were no buildings [there were no longer (any) buildings] that [which] reminded me of my childhood. となっています。

生徒たちは、次のようにBの台詞を考えました。

- ・ It's [That's] a pity.
- ・ You look lonely.
- ・ That's too bad.
- ・ I'm so sorry.
- ・ I want to hear about details of your memories.
- ・ You should forget the town.
- ・ It's too sad.
- ・ How had your hometown been changed?
- ・ What a pity!

相手に同情する表現が目につきます。

次に、第11章「仮定・条件の基本 現実か仮定か」のEXERCISES B(1)です。

- (1) もし若いとき受けた留学の面接試験に合格していたら、その後の人生はまったく違ったものになっただろうが。 [九州大\*]

《Words & Phrases》面接試験 an interview

**状況例** 大学教授がふと自分の学生時代を振り返って発言している。

模範解答は、If I had passed [succeeded in] the interview (test) I had when I was young and been able to study abroad [to study overseas/to go to abroad to study], my (later) life would [could/might] have been completely [totally] different.

生徒たちは、Bの台詞には次のような応答を考えました。

- ・ Oh, it was your turning point.

